バハイスカラシップ

大陸顧問　シュエリン　公子

今回は第１回日本バハイ学識者会議開催の運びになりましたことを心からおよろこび申し上げます。今年度、日本バハイ学術協会が任命されて以来、役員の皆様の活躍にはめざましいものがあり大変感銘をうけております。

大陸顧問団に代わりまして、本日はバハイスカラシップについての万国正義院及び国際布教センターのガイダンス「バハオラの啓示」に基づいた私の考えをいくつか述べさせていただきたいと思います。

まず最初にバハオラの啓示の規模の大きさに目をむけて、その偉大さを理解したいと思います。バハオラは４０年間、啓示の言葉を通して精神エネルギーをこの世に顕し続けました。神からのエネルギーを運んだもの、これは神の言葉でありました。しかし、バハオラにとって神の言葉は学習によって得られた知識ではありませんでした。聖霊の発流ともいうべきものでした。（バハオラ・知恵の書簡より）神の言葉は生後、体得された知識ではなく、後天的な学習によるものでもありません。神の使者は殆んどの場合、学習によって知識習得していません。

啓示の言葉には内的魂と外的形があります。内的魂は無限で創造以前の神の世界に属し聖霊によって発動された言葉です。言葉の外的形は聖霊の流れが通る水路です。

神の言葉は太陽の光線のように人間にエネルギーを運びます。人間は有限であるが故に無限の世界の言葉を完全に理解することはできません。

神の言葉は精神界の真理を顕すもので、顕示者、バハオラは完全にその全てを顕しておられます。真理はあまりにも限りなく大きく、人間の言葉が包含することは十分にできません。

バハオラは真理の大きさについて「人の知るべき全てを明かすことはできない。人に明かした全てが時を得ているともいえない、又時を得た言葉であっても、聞く者の能力に合っているとは限らない。」と言われています。すなわち、真理は求める者の理解の能力の程度に応じて理解されるもので知識の源は神であり、神を求める過程で人は真理を発見していくわけです。人が道を求める時、探求の谷をわたり、忍耐の馬にのって一心に探します。そして一旦、全能全智の神を見つけるとその知識の源泉にしっかりとつかまります。一旦神を見つけると人間は、神の知識の光に包まれそれ以外の学習は人を益することにならないといわれます。

神の真理は大きく顕示者の言葉のその１つの文字にさえ、神の神秘が秘められているともいわれています。たとえばバブは“Ｓｕｒｉｈ”の最初の文字”Ｖ”を明かすのに3000語を費やしたといわれています。

「最も高遠なペン」と呼ばれたバハオラは「最も偉大な精神」の顕示者です。バハオラはこれまで２文字しか知られていなかった人間の世界に２５文字を加え、全２７文字の神の神秘の世界の全てを人間にあかされたといわれています。

バハオラはそれにより

- この世と神の世との壁をとりはらわれた
- 宗教の世界を人間に明らかにされた（進歩的啓示）

・　顕示者とは何かについて明らかにされた（火の書簡参照）
・　ご自身の手で神への賞讃、祈り、瞑想を数多く書簡として残されたなどの恩恵を人間に与えられました。

真の知識とは何か。それは自己の無知を知り、神を知ることであります。人は神を知ることを顕示者を知ること、その著書を読むことを通して学んでいきます。バハオラは「寺院の書」に、バハオラの神制の時代に於て、神の言葉は９つのカテゴリーに分けて顕わされていると述べられています。

１）　神の権威と命令
２）　神への謙虚、嘆願
３）　過去の聖典の解釈
４）　今日への神の法と規則（過去の法の廃止）
５）　神の神秘
６）　世界秩序、地球政府機構、国の元首への書簡など
７）　学習と知識に関するもの（神の摂理、創造の神秘、医薬学、科学など）
８）　人間を教育、人格完成、神の美徳の体得にうながす書簡
９）　社会的な教えに関するもの

バハオラの著書は人間生活のあらゆる面をとり扱っており、物質的、精神的両面に於て、人間界に知恵と知識の地平線を開いたものです。その書簡はわかりやすく、心が清らかで聖別浄化された者であれば誰にでもわかるものです。

バハオラの啓示の理解は学問的知識によるものではなく、例え文字が読めない人でも神の教えを理解することができるものです。人がバハオラの心にふれた瞬間から神の光をうけたその心に新しい能力が与えられ、学習によらない知識が与えられるのです。それは知の発達ではなく、魂の純化によるもので「知識とは神が意図された者の心にさす光である」といわれます。

万国正義院の１９７９年メッセージにはバハイ学の必要性を、「 全ての活動の中心に信徒の精神的成長、知的発達と共同体生活の発展が育くまれなければならない。」と述べられております。国際布教センターの１９８１年メッセージに布教センター・顧問団がバハイ学問分野に援助すべきこととして

①　バハイ学者の若芽を奨励する。
②　寛容の雰囲気をバハイ共同体内に促進する。（バハイ学者を不必要に批判したり調査したりせず他人の見方に寛容な雰囲気を奨励する）が述べられており、又、大陸顧問は

①　メンバーの信仰の基本的な中核を強める。
②　基本的真理と聖約への理解を深める。
③　バハオラへの愛を信徒の心に常に増しつづけるよう手助ける。

<u>バハイ学の重要性</u>

国際布教センターの１９８４年メッセージには５０年前、守護者は「世間が宗教を冷たい目で見る時、知的に装備した若いバハイの必要性が高まっている。」と述べられ、

①　信教を適切な方法でのべ、教えの力と影響力を公平な傍観者に示す為
②　布教の重要な助けとして、特に１２原則ではもはやあきたらぬ人たちに、各分野

別のバハオラの真理を提供できるものを作る為のバハイ学の必要性を語っていられます。

又、万国正義院は

③ バハイ学はバハイ共同体の強化発展に重要（万国正義院１９７９・１・３）と述べられ、１９８４・万国正義院のレズワンメッセージにはバハイ信教が世間に認められてくると一般のバハイの関心が高まり、バハイ学の強化が必要とされてくる。現在、既に世界のリーダーにバハオラの啓示のあらゆる面での真の特性を知らせる努力がなされる必要が起きてきているとバハイ学術の振興を求めていられています。

バハイ学の性格

バハイの学者とはバハオラの教えを深く理解する人・それを現代の思想や問題に関連づけられる人を養成する学問です。（１９４３・１０・２１守護者）

バハイ学の養成

バハイ学者が努力すべきことは

① 身の回りの思想、懸念にバハイの教えを関連づけることでこれは全てのバハイが正式教育がなくともできることです。

② バハイ学は大学院を出た学者や教育の高いものだけができる活動であるという思想をとりのぞくこと。

③ 特殊な才能、訓練、達成を持つメンバーには特別なはげましを与え、それを伸ばし、世界に貢献するところまで育てます。しかし、注意すべき点は（万国正義院１９８３・７・７によると「精神的な真理を科学的、論理的に提供しょうという努力には反対しないが物質に重点を置くあまり、科学的証明のみの現代社会の理解に妥協するのは危険である。」と述べられている点です。例えば現代社会に迎合するあまりバハオラの教えを神の宗教としてではなく国際理解や社会運動の如く提示するのは危険なことです。

バハイ学術発展の２つの可能性

① バハイが学者になる。

② 学者がバハイになる。（万国正義院 １９７７・８・２１）

特に来春４月バハオラが全世界に開襟になると全ての人はバハオラにアクセスができることになります。

どんな偉大な魂があらわれるかわかりません。どんな著名な学者がバハオラの教えを受け入れるかもしれません。

万国正義院（１９８３・１・１９）によるとバハイ学の促進は多くのバハイがあらゆる分野で人類の問題を分析し、それの解決策を教えの中から示すことができるようにする為である、と述べられています。

その例としてミルザ・アブドル・ファドルは著名な学者であると同時にバハオラへの献身と布教へのあくなき情熱をもやした人であり、又、ジョージ・タウンゼンド氏とハッサン・バリウシ氏は大業の翼成者として又、アデイブ・タヘルザテ氏、ピーターカーン氏、フーバーダンバー氏、ナクジャバニ氏、ファテァザム氏等バハイの中には模範となる方がたくさんおられます。

寛容の雰囲気の養成

① 顕示者への忠誠＋バハイの教義、歴史の学習、探求の組合せはこの啓示の力の由縁であります。真理の探求はバハオラを見つける前と後ではちがいます。探求する際文字どうりに従う人、何でも疑ってかかる人どちらも両極端です。バハイは知性と理解をもって従うことが大事で（守護者）探求の過程でミスをした時は忍耐と謙虚さで不和を起こさぬようにしなければなりません。
（万国正義院　１９８０・１０・７・）

② 役に奉仕するメンバーは他人が自分とちがう意見をのべる時、よく理解しようと耳を傾け、おだやかに反応すること、なぜなら誰もこの信教を完全に理解することはできないからです。学者は特にバハイ間に見解のちがいによる壁（不和）をつくらぬようにしなければならず、バハイ行政機関は不和から信徒を守るように（万国正義院　１９７９・７・１８・）作られています。又、専門分野では一流の学者でありながらバハイについては無知なバハイのメンバーとならぬよう礼儀、中庸、気転、知恵をもって表わすよう警告されています。
（万国正義院　１９８０・１０・８）

バハイの信仰の核の強化

① 大業の精神に深く、教えをよくのみこんでいるメンバーの養成

② 外面的にはバハイの法に従いながら内面的にバハイ精神にほど遠い人がいます

③ バハイ学者として望ましいのは学問分野で研究の原理を知ると同時にバハオラへの愛に心が燃えている人です。（万国正義院　１９８３・３・２７・）

④ バハイ学者は知的プライドの危険と戦わねばなりません。一旦学者として有名になるとこの危険にさらされる確率が高いので、聖約にしっかり足をつけて教義の変革や知的プライドから身を守るようにしなければなりません。諺にあるように“実れば実るほど頭をたれる稲穂”がバハイ学者の求める姿です。最も聖なる・アクダスにバハオラはその著書に不明な点については「万国正義院」にたずねるよう指示しています。（万国正義院　１９６７・１２・７・）バハイ信教には２つの権威があります。アブドル・バハ（解釈者、聖約の中心）と万国正義院です。現在成功している学者については「神の顕示者の知識は全ての知識の基準（尺度）である。いかなる科学的真理も有限である。従ってバハイを現代の欲求に合わせようとしすぎて基本的な真理をまげることがあってはならない。」（万国正義院　１９６８・７・２１）との警告がなされています。

バハイ学者にとって不可欠な要素は

① 神のメッセージを超えようとする人間の知には限界のあることを認める謙虚さをもつことである。

② もう１つの不可欠要素は解釈について聖約に忠実であることである。個人解釈は自分の理解の為にのみあって権威ある解釈とはちがう為、不和の原因としてはならず、従って、バハイは友の考えを公平な目で見聞きして、人の考えに傾倒しすぎたり、恐れたりする必要はない。一方、自己の考えを他人に押しつけないように注意しなければならない。（万国正義院　１９６６・３・２７）と指導されております。

聖約に従うことは

① 創造性の発展を養成すること。

② 個人表現を奨励すること。

③ 信仰と理性の調和をはかること。 であり、

これによりバハイ学者は知的プライドから守られます。

バハイ学問の発展は

① 広範囲の人をバハイの真理にひきつける。

② バハイの著名度、地位、影響力を大きくのばす。

③ 世界文明の基礎を広める。

といった褒賞をもたらすものです。

以上をまとめ私が提案いたしますことは次のようになるかと思います。

- 常に聖約のもとで 万国正義院 の意図を実施する手助けとなる学問
- 布教－教化の手段、特に思想的リーダーの地位にバハオラの真理を伝える学問
- 現状をふまえ、机上ではなく実践をともない、低きを助け、問題を解決する学問
- 機構に従って協議と全員参加によって実施するもの
- 頭と心のアクサレンス（最優秀）を求めるもの
- 現学問に妥協、迎合しないもの－バハオラに示された神の新しい基準を広く普及する姿勢をもつもの
- パイオニアであるバハイ学者は日本人バハイが自分と同じような理解レベルに達成するよう養成し、育む姿勢をもつこと
- 西洋型（知的学問）からアジア型（霊的学問）へ重心を移すこと
- 謙虚な姿勢を忘れぬこと。謙虚さの象徴は大地であり、大地はすべての人をのせ育みすべての存在を益するが、しかもすべてより低く、大きく、すべてを包みます。これこそバハイ学者のめざす姿勢です。

これからの日本のバハイ学術会議の荷なう役割には重要なものがあります。日本という物質的には世界の頂点を極めた国が精神的に変換する為の理念を提供していく役割を持つからです。最後にこの会がバハオラの祝福と万国正義院、全精会の導きをうけてますます、発展することを心から祈って本日のご挨拶にかえさせていただきます。